

## 岩手県宿戸沿岸藻場保全調査（自主研究）



本調査は、東日本大震災の津波により被害を受けた宿戸沿岸を支援するため、当センターの自主研究費で、藻場保全活動に資する調査を、平成24年度より3カ年を予定して実施しています。

宿戸は、岩手県の北東部に位置する洋野町（旧種市町）内にあります、この地区は、つくり育てる漁業が盛んで、ウニ増殖場の作れいのある有名なところですが、作れいさが

ている場所より少し深い場所は、磯焼けしているところがあって、潜水漁業者が中心となって、積極的に磯焼け対策が行われてきました。このような場所を9月19・20日の2日間に、事前調査として船上からの目視観察とスポット潜水によるコドラート調査を実施し、海藻の被度、アワビ・ウニの生息量を把握しました。

その結果、宿戸地先の海藻植生、ならびにウニ（キタムラサキウニとエゾバフンウニ）とアワビ（エゾアワビ）の棲息状況について基礎的な知見を得ることができました。また、環境生態系保全活動で漁業者がウニ除去を行った平成20年度対策区と21年度対策区は、依然として磯焼け状態でしたが、本年度の対策区では、藻場が再生はじめており、エゾアワビの稚貝が確認されました。

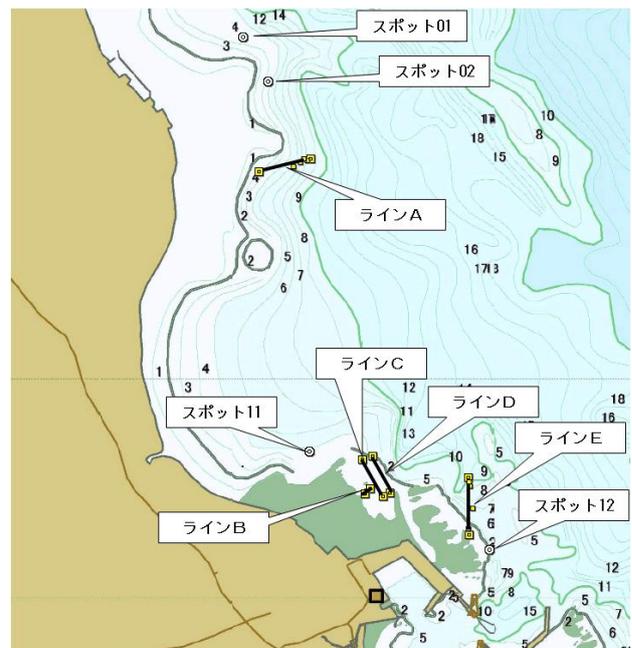
平成20年度と21年度の対策区において、ウニ除去の効果が現れない原因として、

①周辺からウニが侵入していること、②巨礫の間に隠れたウニを徹底除去できなかったことが考えられます。そこで、11月にウニが侵入しにくい小規模試験区を設置し、内側のウニを徹底除去してきました。その後の経過を確認するために、次回は3月にモニタリングする予定です。

### 【今後の予定】

- 3月下旬 モニタリング
- 4月中旬 藻場保全活動プランの提案（調査研究部 安藤 亘）

【関連情報】 当社長崎支所 <http://www.gosea.or.jp/koueki/koueki.html>



宿戸海域の調査場所